

主要産地における平成28年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第1報 (8月30日現在)

作成:公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(平成28年8月31日)

全 国 道 府 県	収穫量(早期栽培等)			作況 (早期栽培等)		作柄 (28年8月15日 現在)	品質概況等		参考		
	予想収穫量 (28年8月15日 現在)①	前年産 (27年8月15日 現在)②	前年産 との比較 (①-②)	作況指数 (28年8月15日 現在)	前年産 (27年8月15日 現在) との比較		28年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (28年7月末現在)	27年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (27年7月末現在)	生産数量目標		平成28年産 自主的取組 参考値 (深堀)
									平成28年産	前年産 との比較	
全国	t	t	t				%	%	t	t	t
							60.8	67.0	7,430,000	▲ 80,000	7,350,000
北海道						やや良			541,500	▲ 5,830	535,669
青森						やや良			239,877	▲ 2,583	237,294
岩手						平年並み			268,321	▲ 2,889	265,432
宮城						平年並み			344,906	▲ 3,714	341,193
秋田						平年並み			413,092	▲ 4,448	408,644
山形						平年並み			340,830	▲ 3,670	337,160
福島						平年並み			335,933	▲ 3,617	332,316
茨城						平年並み			333,776	▲ 3,594	330,182
栃木						平年並み			295,508	▲ 3,182	292,326
埼玉									149,659	▲ 1,611	148,047
千葉						やや良			243,864	▲ 2,626	241,239
新潟						やや良			515,737	▲ 5,553	510,184
富山						やや良			183,672	▲ 1,978	181,695
石川						やや良			122,313	▲ 1,317	120,996
福井						やや良			124,124	▲ 1,336	122,787
長野						平年並み			191,933	▲ 2,067	189,867
滋賀						やや良			158,741	▲ 1,709	157,032
兵庫									178,518	▲ 1,922	176,596
岡山									156,861	▲ 1,689	155,172
広島									128,585	▲ 1,385	127,201
山口									107,601	▲ 1,159	106,443
愛媛									73,133	▲ 787	72,345
高知	31,600	31,200	400	100	4		34.4	54.7	49,537	▲ 533	49,003
福岡									180,526	▲ 1,944	178,582
熊本							67.4	65.8	187,293	▲ 2,017	185,277
宮崎	31,000	29,100	1,900	97	12		68.3	74.6	92,603	▲ 997	91,606
鹿児島	19,700	19,400	300	96	8		45.1	51.3	109,887	▲ 1,183	108,704

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）
北海道	<p>・8月15日現在の作柄は、「やや良」が見込まれる。これは、6月上旬から中旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7月には天候が回復し、穂数が「平年並」、全もみ数が「平年並」と見込まれること及び、8月上旬は高温・多照に経過したことから、登熟は「やや良」と見込まれるためである。（北海道農政事務所 8月30日付）</p> <p>（全道）生育はやや遅れているものの（遅3日）、登熟は平年並に進んでいる。（北海道農政部 8月15日現在）  （空知）生育は平年に比べやや遅れているが（遅3日）、好天により登熟は順調に進んでいる。穂数は589本/m<sup>2</sup>で平年並。（空知総合振興局 8月15日現在）  （石狩）8月上旬の高温多照により、生育はほぼ順調である（遅1日）。（石狩総合振興局 8月15日現在）  （後志）生育は2日遅れたが、登熟は良。穂数は586本/m<sup>2</sup>で平年並。（後志総合振興局 8月15日現在）  （胆振）生育はやや遅い（遅3日）。（胆振総合振興局 8月15日現在）</p> <p>（日高）生育は平年並み（遅1日）。（日高総合振興局 8月15日現在）  （渡島）生育は概ね平年並に推移（出穂早1日）。（渡島総合振興局 8月15日現在）  （檜山）生育は4日遅れたが、登熟は平年並に進んでいる。（檜山振興局 8月15日現在）  （上川）生育は平年よりもやや遅れて推移している（遅4日）。（上川総合振興局 8月15日現在）  （留萌）登熟は平年並に進んでいる（±0日）。（留萌振興局 8月15日現在）  （オホーツク）生育は平年並である（遅2日）。（オホーツク総合振興局 8月15日現在）</p> <p>・北海道地方では、8月30日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.9℃以上）  （札幌管区気象台 8月25日発表）</p>
青森	<p>・8月15日現在における水稲の作柄は「やや良」と見込まれる。これは、全もみ数が「平年並」と見込まれることと、登熟が平年に比べて「やや良」と見込まれるためである。（東北農政局 8月30日付）</p> <p>・水稲作況（生育ステージ）  （黒石）「つがるロマン」の出穂期は8月3日で平年と同日であった。また、「青天の霹靂」の出穂期は8月3日で前年より1日遅かった。  （十和田）「まっしぐら」の出穂期は8月1日で平年より3日早かった。</p> <p>・水稲作況（穀粒調査）  （黒石）「つがるロマン」の穀粒は、粒長、粒幅ともに平年並で、粒長×粒幅は平年比101%と平年並であった。「青天の霹靂」の穀粒は、粒長、粒幅ともに前年並で、粒長×粒幅は前年比101%と前年並であった。  （十和田）「まっしぐら」の穀粒は、粒長はわずかに平年を下回ったが、粒幅は平年並で、粒長×粒幅は平年比97%とやや小さかった。（青森県産業技術センター農林総合研究所 8月18日付）</p> <p>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.3℃以上）  （仙台管区気象台 8月25日発表）</p>
岩手	<p>・8月15日現在における水稲の作柄は「平年並」と見込まれる。これは、全もみ数及び登熟が「平年並」と見込まれるためである。（東北農政局 8月30日付）</p> <p>・県全体の出穂期は8月6日と平年並（平年差-1日）であった。好天で経過したことか出穂・開花は良好であり、登熟も順調に進んでいる。（岩手県 8月25日付）</p> <p>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.3℃以上）  （仙台管区気象台 8月25日発表）</p>
宮城	<p>・8月15日現在における水稲の作柄は「平年並」と見込まれる。これは、全もみ数及び登熟が「平年並」と見込まれるためである。（東北農政局 8月30日付）</p> <p>・8月18日現在、63,834ha（水稲作付見込面積の98.7%）で出穂が確認され、本年の出穂期は8月11日となり、平年並となっている。（宮城県 8月19日付）</p> <p>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.3℃以上）  （仙台管区気象台 8月25日発表）</p>
秋田	<p>・8月15日現在における水稲の作柄は「平年並」と見込まれる。これは、全もみ数及び登熟が「平年並」と見込まれるためである。（東北農政局 8月30日付）</p> <p>（鹿角）8月20日実施の水稲定点調査では、1m<sup>2</sup>当たりの穂数は490本（平年比104%）で多くなった。また、1穂当たりの着粒数は67.8粒（平年比99%）で平年並であったため、1m<sup>2</sup>当たりの総粒数は33,496粒（平年比104%）で多くなった。（8月26日付）  （山本）8月20日現在の水稲定点調査ほ場（管内9地点）の穂揃い期における生育状況は、m<sup>2</sup>当たりの穂数は470本（平年比105%）、葉数12.6（同差-0.2葉）、葉色39.2（同比103%）、一穂着粒数72.0粒（同比96%）、m<sup>2</sup>当たりの全着粒数は33,807粒（同比102%）となっている。（8月26日付）  （秋田）8月20日現在の定点調査ほ場のm<sup>2</sup>当たりの穂数は、423本（平年比95%）で平年より少なく、一穂着粒数は75.0粒（同99%）で平年並、m<sup>2</sup>当たりの（由利）水稲定点調査（3品種・移穂8か所平均）によると、穂揃い期のm<sup>2</sup>あたり穂数は455本（平年比95%）と少なく、一穂粒数は69.8粒（同101%）と平年並、m<sup>2</sup>あたり粒数は31,559粒（同97%）と少なくなっている。（8月19日付）  （仙北）定点ほ場全体の出穂期は8月3日（平年8月3日）で平年並。管内全体の出穂期は8月4日となっている。8月19日現在の「あきたこまち」の生育は、穂数は433本/m<sup>2</sup>（平年比98%）、着粒数は30.9千粒/m<sup>2</sup>（平年比96%）、葉数は12.6（平年差-0.2葉）。（8月23日付）  （雄勝）8月19日のあきたこまちの生育状況（管内8か所平均）は、穂数413本/m<sup>2</sup>（平年比96%）と平年より少なくなったが、一穂粒数は76.8粒（平年比104%）と平年より多く、着粒数は31,671粒/m<sup>2</sup>（平年比101%）で平年並となっています。（8月26日付）  （平鹿）穂揃いの生育調査では、穂数が416本/m<sup>2</sup>（平年比95%）、葉数13.2葉（平年差+0.4葉）、m<sup>2</sup>当たり着粒数32,049粒（平年比98%）となっている。（8月22日付）  （秋田県農林政策課）</p> <p>・9月の斑点米カメムシ類の発生量は平年と比較して多い（前年並）と予報。種別では、アカスジカメムシは多く（前年並）、アカヒゲホソドリカメムシは平年並（前年よりやや少ない）と予報。（秋田県病害虫防除所 8月26日付）</p> <p>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.3℃以上）  （仙台管区気象台 8月25日発表）</p>
山形	<p>・8月15日現在における水稲の作柄は「平年並」と見込まれる。これは、全もみ数及び登熟が「平年並」と見込まれるためである。（東北農政局 8月30日付）</p> <p>（鶴岡田川）出穂は概ね平年並で、平坦部では、「はえぬき」「ひとめぼれ」：8月4日頃、「つや姫」「コシヒカリ」：8月12日頃が出穂期となった。「はえぬき」の生育診断面では、穂数が平年比93%とやや少なく、1穂粒数は平年比106%とやや多く、m<sup>2</sup>当たり粒数は平年比98%と平年並の状況。葉色は平年よりやや低くなっている。刈取開始時期は、出穂後の気温が高く経過しているため、平年に比べやや早まる見込み。（庄内総合支庁農業技術普及課 8月26日付）</p> <p>（最上）出穂盛期は、平年並の8月7日となった。生育診断面「はえぬき」の穂数は平年より多く、1穂粒数は平年より少なく、m<sup>2</sup>当たりの粒数は平年並となっている。地域や圃場により差が大きくなっている。出穂期は平年並だが、出穂以降の平均気温がやや高く経過していることから、刈取適期はやや早まる見込み。（最上総合支庁農業技術普及課 8月24日付）</p> <p>（酒田飽海）出穂期は平年並で、「つや姫」も8月10日～13日頃に出穂を迎えた。8月18日現在、穂揃いの生育調査では、穂数が平年並～少ない状況だが、一穂粒数が多く、総粒数は平年並～やや多い状況。また、葉色は圃場間で差がみられる。（庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月22日付）</p> <p>管内の出穂盛期は、8月5日頃で平年より1日早くなった。品種別では、「はえぬき」が8月3～5日頃、「ひとめぼれ」が8月2～4日頃、「つや姫」が8月10～13日頃の出穂となった。また、生育診断面の穂揃いの生育状況を見ると、穂数は平年に比べてやや少ないが、一穂粒数は平年に比べてやや多いため、m<sup>2</sup>当たり粒数は平年並～やや多い状況。出穂後の気温が平年と比べて高く推移していることから、刈取適期が早まっている。（酒田農業技術普及課 8月22日付）</p> <p>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.3℃以上）  （仙台管区気象台 8月25日発表）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
福島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における水稻の作柄は「平年並」と見込まれる。これは、全もみ数及び登熟が「平年並」と見込まれるためである。(東北農政局 8月30日付)</li> <li>・東北地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.3℃以上)(仙台管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>
茨城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の作柄は、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことから「平年並」と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作柄は、鹿行が「やや良」、北部、南部及び西部は「平年並」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、穂数がやや少なく、1穂当たりもみ数が多いとみられることから「平年並」と見込まれる。登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれ順調に推移していることから「平年並」と見込まれる。(関東農政局 8月30日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、綿葉枯病の発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・関東甲信地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(気象庁 8月25日発表)</li> </ul>
栃木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の作柄は、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことから「平年並」と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作柄は、北部、中部及び南部ともに「平年並」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並とみられることから「やや多い」と見込まれる。登熟は、7月が断続的に日照時間が平年を下まわったことから、全もみ数がやや多いことによる相反作用により「やや不良」と見込まれる。(関東農政局 8月30日付)</li> <li>・関東甲信地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(気象庁 8月25日発表)</li> </ul>
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の生育は、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことから「平年並」で推移している。また、作柄表示地帯別の生育は、東部及び西部ともに「平年並」で推移している。(関東農政局 8月30日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、いもち病の発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・関東甲信地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(気象庁 8月25日発表)</li> </ul>
千葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の作柄は、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことから「やや良」と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作柄は、京葉、九十九里及び南房総ともに「やや良」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、穂数がやや少なく、1穂当たりもみ数が多いとみられることから「やや多い」と見込まれる。登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれ順調に推移していることから「平年並」と見込まれる。(関東農政局 8月30日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・関東甲信地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(気象庁 8月25日発表)</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における水稻の作柄は、「やや良」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、「平年並」と見込まれる。登熟は、出穂期以降おおむね気象が良好に経過していることから、「やや良」と見込まれる。(北陸農政局 8月30日付)</li> <li>・コシヒカリは出穂期が、県平均で平年に比べ3日早い8月4日、稈長は指標値に比べ「並」、出穂期及び出穂期15日後の葉色は「並」の状況。こしいぶきは出穂期が、県平均で年に比べ4日早い7月26日、稈長は指標値に比べ「並」、出穂期及び出穂期15日後の葉色は「やや濃い」状況。こしいぶきは、出穂期が平年より早く、登熟期の気温が高く推移してきたことから、収穫期が早まる見込み。(新潟県 8月23日付)</li> <li>(魚沼) コシヒカリの収穫適期の目安(8月16日現在) <ul style="list-style-type: none"> <li>平場→田植日5月10日(出穂日7月26日)で9月1日、田植日5月15日(出穂日7月31日)で9月7日、田植日5月20日(出穂日8月2日)で9月9日、山場→田植日5月10日(出穂日7月30日)で9月10日、田植日5月15日(出穂日8月2日)で9月13日、田植日5月20日(出穂日8月5日)で9月17日(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 8月23日付)</li> </ul> </li> <li>(糸魚川) 早生品種(こしいぶき、わたぼうし、五百万石等)の収穫適期の目安は、糸魚川では7月21日出穂は8月28日、7月23日は8月30日、7月25日は9月1日、7月28日は9月4日、能生では7月21日出穂は8月29日、7月23日は8月31日、7月25日は9月2日、7月28日は9月5日、中生品種(コシヒカリ、こがねもち等)の収穫適期の目安は、糸魚川では7月31日出穂は9月9日、8月2日は9月11日、8月5日は9月15日、8月8日は9月18日、8月12日は9月23日、能生では7月31日出穂は9月10日、8月2日は9月12日、8月5日は9月16日、8月8日は9月20日、8月12日は9月24日。(糸魚川地域振興局農林振興部 8月23日付)</li> <li>(三条) 出穂期は平年に比べ早く、出穂後も高温で経過しているため、収穫適期は当初予想より更に早まる見込み。ゆきん子舞などの早生品種では、既に成熟期に達しているほ場もみられる。コシヒカリの収穫適期も早まると予想される。(三条農業普及指導センター 8月24日付)</li> <li>(新発田) 8月18日現在、5月10日移植の収穫適期のめやすは、ゆきん子舞は8月31日から9月5日、こしいぶきは9月1日から9月6日、ひとめぼれは9月1日から9月6日、コシヒカリは9月15日から9月21日。(新発田農業普及指導センター 8月22日付)</li> <li>(南魚沼) 本年の出穂期は平年に比べ3日程度早まった。8月22日現在、コシヒカリの収穫適期の見込みは、南魚沼市では出穂期が8月1日で9月10日、出穂期が8月5日で9月15日、出穂期が8月10日で9月21日。湯沢市では出穂期が8月6日で9月18日、出穂期が8月10日で9月23日、出穂期が8月15日で9月30日。(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 8月22日付)</li> <li>(十日町) 十日町市(平坦地)のコシヒカリの収穫適期の目安は、出穂期が7月30日で9月9日、出穂期が8月2日で9月13日、出穂期が8月5日で9月17日。津南町米原(山間地・台地)のコシヒカリの収穫適期の目安は、出穂期が8月2日で9月15日、出穂期が8月6日で9月21日、出穂期が8月11日で9月28日。(十日町農業普及指導センター 8月22日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・北陸地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.4℃以上)(新潟地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
富山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における水稻の作柄は、「やや良」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、「やや多い」と見込まれる。登熟は、早生品種の出穂期となる7月中旬以降、おおむね天候に恵まれ順調に推移しているとみられることから「平年並」と見込まれる。(北陸農政局 8月30日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、紋枯病の発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・北陸地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.4℃以上)(新潟地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
石川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における水稻の作柄は、「やや良」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、「平年並」と見込まれる。登熟は、「平年並」と見込まれる。(北陸農政局 8月30日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・北陸地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.4℃以上)(新潟地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
福井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における水稻の作柄は、「やや良」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、「平年並」と見込まれる。登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれ順調に推移していることから、「平年並」と見込まれる。(北陸農政局 8月30日付)</li> <li>・8月25日現在、農業試験場のコシヒカリ(5月20日播)の稲水分はほぼ平年並。出穂期が8月3日のコシヒカリの成熟期は9月9日頃、出穂期が8月2日のあきさかりの成熟期は9月11日頃と予想。(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月26日付)</li> <li>・8月23日から向こう1か月で、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。(農林水産省 8月23日公表)</li> <li>・北陸地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.4℃以上)(新潟地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
長野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の作柄は、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことから「平年並」と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作柄は、東信、南信、中信及び北信ともに「平年並」と見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が平年並とみられることから「平年並」と見込まれる。登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれ順調に推移していることから「平年並」と見込まれる。(関東農政局 8月30日付)</li> <li>・8月10日現在、豊科定点圃場(雑苗5月16日播)では、「コシヒカリ」は8月3日に収穫期となった。平年より6日早く昨年より1日早い。「コシヒカリ」は7月末から8月初旬に出穂期を迎えた圃場が多く、全般に、昨年より早く出穂している。平坦地の早生種は登熟中期で、「コシヒカリ」は穂揃い〜傾穂始め。</li> <li>・刈り取り開始は「平年より早い」ことが予想される。(松本農業改良普及センター)</li> <li>・関東甲信地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(気象庁 8月25日発表)</li> </ul>
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在における作柄は湖南、湖北とも「やや良」が見込まれ、県の作柄も「やや良」が見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、穂数が「平年並」となり、1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから「やや多い」が見込まれる。登熟は、8月以降おおむね好天で経過していることから「平年並」が見込まれる。被害は、山間部を中心に獣害等の発生がみられる。(近畿農政局 8月30日付)</li> <li>・各品種とも出穂期は平年より早く、成熟期も平年より早くなる見込み、7月30日現在の「コシヒカリ」は、草丈、茎数、葉色ともに平年並であった。8月10日現在の「秋の詩」は、草丈および茎数は平年並で、葉色は平年より淡かった。出穂期は、「コシヒカリ」では7月25日で平年より4日早く、「秋の詩」では8月7日で平年より5日早かった。</li> <li>・「みずかがみ」の成熟期は、4月下旬〜5月上旬移植の場合では8月18日前後にピークを迎えている。5月中旬移植の場合では、8月26日前後にピークを迎える見込み。(滋賀県農業技術振興センター 8月19日付)</li> <li>・近畿地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(大阪管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上)(大阪管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>
岡山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.0℃以上)(広島地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
広島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方では、9月1日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+2.0℃以上)(広島地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
山口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月移植のコシヒカリ・ひとめぼれでは、糊熟期〜黄熟期に差し掛かってきた。5月下旬移植のきぬむすめでは出穂期となり、6月移植のヒノヒカリでも、出穂期が近づいてきた。</li> <li>・調査ほ場の収穫開始時期の目安は、出穂期7月24日のコシヒカリで8月27日(日置)、8月29日(徳山)と予測。出穂期7月30日のひとめぼれ(洪水・宗頭)で9月4日、出穂期8月3日のひとめぼれ(油谷)で9月7日と予測。(長門農林事務所農業部、JA長門大津、8月22日付)</li> <li>・九州北部地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.7℃以上)(福岡管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもち病は、葉いもちの発生が平年より多い傾向にあり、今後もその傾向が続くと予想される。(愛媛県 8月30日付)</li> <li>・四国地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.8℃以上)(高松地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
高知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培の10a当たり予想収量は481kg、作況指数が「100」(平年並)と見込まれる。また、普通栽培の生育は「平年並」で推移している。</li> <li>・全もみ数は穂数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、7月以降高温・多照で推移したことから粒の充実も順調で、「やや良」と見込まれる。</li> <li>・作柄表示地帯別では、中東部の早期栽培は10a当たり予想収量が492kg、作況指数が100と見込まれる。また、普通栽培の生育は「平年並」で推移している。西部の早期栽培は10a当たり予想収量が453kg、作況指数が102と見込まれる。(中国四国農政局 8月30日付)</li> <li>・四国地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.8℃以上)(高松地方気象台 8月25日発表)</li> </ul>
福岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州北部地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.7℃以上)(福岡管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>
熊本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州北部地方では、8月31日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.7℃以上)(福岡管区気象台 8月25日発表)</li> </ul>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
宮 崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の早期栽培水稲の作柄は、4月から5月にかけての高温と日照不足の影響で穂数が少なくなったことから、10a当たり予想収量は461kg（前年との差+50kg）で、作柄は「やや不良」（作況指数97）が見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、1穂当たりもみ数は平年並となったが、穂数が少なくなったことから、平年に比べて少なくなった。登熟は、幼穂形成期から出穂期にあたる5月下旬から6月下旬にかけては日照時間が平年を下回ったが、7月上旬以降の日照時間が平年並ないやや上回って経過したことや、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「やや良」となった。</li> <li>・被害は、4月から5月の日照不足等の影響により、分けつ抑制などの気象被害がみられ、また、虫害ではスクミリンゴガイの食害、病害では、葉いもちや穂首いもちの発生がやや多くみられたことなどから、やや多くなった。</li> <li>・普通栽培水稲の生育は「平年並」で推移している。（九州農政局 8月30日付）</li> <li>・9月の穂いもちの発生量は平年と比較してやや多く、紋枯病とごま葉枯病の発生量は平年並の予報。トビイロウンカの発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生量は平年並の予報。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月26日公表）</li> <li>・九州南部地方では、8月30日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.1℃以上）（鹿児島地方气象台 8月25日発表）</li> </ul>
鹿 児 島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月15日現在の早期栽培の作柄は、登熟前半までの日照不足及び風雨や登熟後半の高温の影響、また、一部地帯でのいもち病等の拡大も影響し登熟が「やや不良」となったことから、10a当たり予想収量は428kgで作柄は「やや不良」（作況指数96）が見込まれる。</li> <li>・全もみ数は、田植期の違いにより地帯間で差がみられるものの、県平均では穂数及び1穂当たりもみ数が平年並となったことから「平年並」となった。</li> <li>・登熟は、登熟前半までの日照不足及び風雨や登熟後半の高温、一部地帯でのいもち病等の拡大も影響したため、県平均で「やや不良」となった。</li> <li>・気象被害では、出穂期の日照不足及び風雨の影響に加え、登熟後半の高温の影響で登熟不良がみられた。病虫害では、出穂期前後に降雨が続き、適期防除のできなかった一部地帯で、いもち病、紋枯病及びカメムシの発生がみられたことから、平年に比べやや多い被害発生となった。</li> <li>・普通栽培の生育は「平年並」で推移している。（九州農政局 8月30日付）</li> <li>・9月の普通期水稲のいもち病（穂いもち）と紋枯病の発生量は平年並、トビイロウンカと斑点米カメムシ類の発生量は平年よりやや多いと予報。（鹿児島県病害虫防除所 8月30日公表）</li> <li>・九州南部地方では、8月30日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.1℃以上）（鹿児島地方气象台 8月25日発表）</li> </ul>

注：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

## 参考資料

平成28年産水稻の8月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局)、  
平成27年産水稻の8月15日現在における作柄概況(農林水産省)、  
平成28年産米の農産物検査結果(速報値/平成28年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年7月31日現在)(農林水産省)、  
平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、  
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、  
「平成28年度病害虫発生予報第6号」の発表について(農林水産省)、

農作物の生育状況 8月15日現在(北海道 8月19日)、農作物生育状況 8月15日現在(北海道空知総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道石狩振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道後志総合振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道胆振総合振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道日高振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道渡島総合振興局 8月19日)、農作物の生育状況 8月15日現在(北海道檜山振興局 8月19日)、  
農作物の生育状況 8月15日現在(北海道上川総合振興局 8月19日)、農作物生育状況調査の概要 8月15日現在(北海道留萌振興局 8月19日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月19日)、  
H28水稻作況(生育ステージ)・(籾殻調査)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月18日)、  
農作物技術情報第6号水稻(岩手県 8月25日)、  
平成28年産水稻の出穂状況について(8月18日現在)(宮城県農林水産部 8月19日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月26日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第5号(9月予報)(秋田県病害虫防除所 8月26日)、  
おいしい米づくり情報第12号(庄内総合支庁 農業技術普及課 8月26日)、稲作だより第10号登熟期編(最上総合支庁農業技術普及課 8月25日)、  
酒田飽海つや姫情報第7号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月22日)、  
酒田飽海日本一米づくり情報第10報(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月22日)、  
水稻の生育状況と今後の管理対策(第9号)(新潟県農林水産部 8月23日)、稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 8月23日付)  
平成28年度糸魚川売れる米づくり水稻生育情報No. 8(糸魚川農業普及指導センター 8月23日)、水稻技術情報No.8(新発田農業普及指導センター 8月22日)  
FAX稲作情報号外(三条農業普及指導センター 8月24日)、稲作情報No.8(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 8月22日)、  
収穫適期のめやす(十日町版)(津南町版)(十日町農業普及指導センター 8月23日)、  
稲作情報No.17(8月25日)水稻登熟状況、大麦圃場準備(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月26日)、  
平成28年度作物技術普及情報第13号(松本農業改良普及センター)、  
平成28年度水稻生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月19日)、  
稲作ワンポイントアドバイス(No8)(長門農林事務所 8月22日)、  
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 8月30日)、  
平成28年度病害虫発生予報第5号(宮城県病害虫防除・肥料検査センター 8月26日)、  
平成28年度病害虫発生予報第6号(9月)(鹿児島県病害虫防除所 8月30日)、

高温に関する異常天候早期警戒情報(気象庁 8月25日)